九州大学学術研究都市推進機構ニュース　vol.1

opackめーる

オーパック

Organization for Promotion Academic City by Kyushu University

http://www.opack.jp/

「九州大学伊都キャンパス開校まであとわずか ～進む新キャンパスと学術研究都市づくり」

今年の開校を3ヶ月後に控えた新たな知の拠点「九州大学新キャンパス」は、糸島半島（福岡市西部）に建設が進められており、今年に入り様々な動きがおこっています。

一つとして、5月20日の九州大学の記者発表にて10月1日に開校記念式典を行うことが発表され、この日が九州大学の新たな出航の記念日となることが決まりました。これに先立って、九州大学は、新キャンパスの名称を一般公募（全国から473件）により募集し、4月11日の役員会において、「伊都キャンパス」に決定しました。これは、「かつてこの辺が伊都国とよばれ、大陸との交流が盛んであったこと、また、新キャンパスが国際交流の拠点としても期待されている」（九州大学ホームページより）ことから選ばれたものです。

着々と建設が進められている伊都キャンパス（2005年4月撮影）

また、伊都キャンパスでは、工学系の研究教育棟の建設が進められ、5月27日に、今年度開校の中心施設となるウエスト4号館（研究教育棟）、ウエスト3号館（研究教育棟・実験研究棟）の定礎式が行われました。このように、今年度後期開校を控えた工学系「機械航空系」、「物質科学系」の受け入れ態勢が整いつつあります。また、これに伴う理系図書館の一部がOPENするとともに、食堂・売店等の生活支援施設も暫定OPENします。また、18年度後期開校を控える工学系「地球環境系」、「システム情報系」が移転する研究教育棟の建設もPFI事業により進められています。このように、伊都キャンパスは、開校を3ヶ月後に控えハード整備が整いつつあります。

一方、移転を控えた工学部・工学府・システム情報科学府の学部学生、大学院学生及び研究生等を対象に、4月、5月にキャンパス移転説明会、伊都キャンパスや周辺地域の学生居住施設の見学会などが実施されています。

周辺地域のインフラ整備では、複数のデベロッパーにより学生用アパート等の建設が進められており、受け入れ態勢が進んでいます。また、伊都キャンパスの玄関口となるJR筑肥線の新駅名が「九大学研都市駅」に決定し、九大開校に合わせた開業に向け、建設工事が進んでいます。さらに、大学のメインエントランスへと繋がるアクセスルート「学園通線」の整備が進められており、このほど道路脇を固めるケヤキの街路樹も植樹され、今後の九州大学および学術研究都市のメインルートに相応しい道路が整備されつつあります。

その他、「九州大学伊都キャンパス誕生年2005」と銘打って、九州大学と当機構では講演会や記念イベント、地域を巻き込んだ行事などを多数準備しています。

このように、今年10月の九州大学の開校からはじまる学術研究都市の創造の第一ステップは着実に進んでおり、当機構としても更なる産学官の関係機関との連携を強くし、学術研究都市実現に向けて活動を続けていきたいと考えています。

九州大学新キャンパス計画推進室:
http://www.suisin.kyushu-u.ac.jp/

（*写真提供:九州大学新キャンパス計画推進室、統合移転推進室）

キャンパス名称の抽選風景

学園通線を固めるケヤキ並木

シンポジウム報告

東京でシンポジウムを開催!

当機構では、3月3日に東京・千代田放送会館において、「どうなる大競争時代の大学経営」と題し九州大学学術研究都市シンポジウムを開催しました。パネリストに、遠山敦子元文部科学大臣、北城格太郎経済同友会代表幹事・IBM会長、石川憲一金沢工業大学学長、天野郁夫独立行政法人国立大学財務・経営センター研究部長、梶山千里九州大学総長をお迎えして、コーディネーターに早川信夫NHK解説委員をお願いし、

①法人化で進む大学間競争と産学連携、
②求められる大学の個性化とトップのリーダーシップ、
③大競争時代の大学のあり方とは?
について討論が交わされました。

パネリストからは、「国内・国外を問わず優れた学生・研究者が集まる世界の中の一流大学作りが必要」「大学改革のために意識改革と学長のリーダーシップが必要」といった意見が出されるなど、非常に有意義なシンポジウムとなりました。

当日の模様は、NHKで収録され、衛星放送で全国に発信された他、九州・沖縄地域では地上波でも放送されました。

東京シンポジウム

活動報告

九州大学・企業を訪問中

当機構のミッションは「学研都市のまちづくり」であり、具体的には「企業誘致」です。

シーズシート(例)

「風レンズ効果による高効率風車の開発」
(応用力学研究所大気流体工学:大屋教授)

ここがすごい
つば付きディフューザ風車の開発で、約5倍の効率アップ

何につかえる?
・家庭用発電機(1kW程度)から
・分散型電源(数百kW程度)

夢が広がる「風レンズマイクロ風車」
環境にやさしい自然エネルギーのひとつである「風力発電」を、シンプルなオプションで大幅に効率アップ

これまでは
風力発電で、もっと有効に、自然エネルギーを活用したい

地球温暖化が進む中、自然エネルギー(風力、太陽光、地熱など)の活用は、時代のニーズ

将来は?
風力発電の
・蓄電システムと連携した電源
・燃料電池用水素発生の電源
としての活用

マッチングシート(例)

○○○殿の業務概要(一部分)

1. 生活家電(キッチン、家事・生活、空調・冷暖房、AV機器)
2. 携帯・モバイル(携帯電話、ハンドヘルドパソコン)
3. 環境・公共・都市・交通・自動車(環境関連システム)
4. 電力・エネルギー(発電システム、電力系統システム、省エネ関連)
5. 半導体(半導体製品・ソリューション、DRAM製品、半導体用材料)

1. 高品質・高画質家電
2. モバイルシステムの軽量化
3. 制御・管理システムの改善
4. 高効率ボイラータービン・発電機
5. 高品質チップ・デバイス

この分野でマッチング

そのためには、「大学のシーズ」と「企業のニーズ」のマッチングからスタートし、「共同研究」と「試作」を経て、「研究所」や「工場」の誘致に至るステップが欠かせません。

私たちは、九大の先生方を訪問し、その研究内容を解りやすい「シーズシート」(現在約20枚)にまとめ、九大にどんなシーズがあるのかを掘り起こし、企業に紹介しています。

企業訪問の際には、これに加えて、受け皿としての「キャンパス周辺の開発状況」や、どんな技術や研究開発で九大のシーズが活かせるかを私たちなりに考えた「マッチングシート」(現在約50枚)などを持参し、九大との連携をおすすめしています。

理事会・評議員会を開催

当機構では、3月31日に評議員会と理事会を福岡市内のホテルで開催し、平成17年度の事業計画と収支予算についてご審議いただきました。また、6月6日と7日には評議員会と理事会を続けて開催し、平成16年度の事業報告と収支決算報告、寄付行為の変更等についてご審議いただき、すべて原案どおり承認されました。

九大の関連するシーズ

1. 機械工学・機械力学
2. 情報工学・材料工学
3. 環境工学・水質工学
4. 電気工学・エネルギーシステム工学
5. 電子工学

超高圧電子顕微鏡の会員制利用を検討中

当機構では、九州大学と連携して「電子顕微鏡」の国際拠点構築と産学官連携のための支援組織として、「九州大学超高圧電子顕微鏡室産学官連携フォーラム」を設置し、「ナノテク・材料」「ライフサイエンス」「情報科学」「エネルギー・環境」などの分野における産学官交流・連携を促進しようとしており、現在そのための準備を進めています。

超高圧電子顕微鏡

ホームページをリニューアル

学術研究都市構想、九州大学情報、OPACKの活動内容および関連機関、周辺の地域情報をカテゴリー化し、分かりやすく発信するために、ホームページをリニューアルしました。暫時更新して参りますので、ぜひ一度ご覧下さい。

http://www.opack.jp/

《九州大学伊都キャンパス誕生年2005》がスタート

九州大学伊都キャンパス開校を祝い、学術研究都市のアピールと地域の連携意識の高揚を目的とする行事《九州大学伊都キャンパス誕生年2005》をスタートしました。7月から来年1月まで、伊都キャンパス周辺や天神などで実施される「開校記念事業」「地域の祭り」などで、リーフレット、うちわの配布や九大生の参加など「学術研究都市構想」をPRします。

『企業誘致マップ』を作成中

当機構では、九州大学学術研究都市を支えるまちづくりとして、事業化または検討中の開発プロジェクトのマップや概要書を作成中です。近く皆さまに配布できるようになりますので、お問い合わせください。

行事予定

九州大学伊都キャンパス開校

いよいよ10月に、九州大学伊都キャンパスが開校します。工学系の教職員・学生約2,000名が移転する伊都キャンパスは、科学の粋を結集した未来を拓（ひら）く研究の実証実験の場として、また、地域と連携した学術研究都市の核として期待されています。

「九大学研都市駅」開業日決定

九州大学伊都キャンパスの玄関口になる、JR筑肥線「九大学研都市駅」が9月23日に開業すると発表されました。10月1日の9時30分から現地で開業の記念イベントが行われます。

http://www.jrkyushu.co.jp/

企業セミナー開催

本年度は「バイオテクノロジー」「ナノテクノロジー」「水素エネルギー」のテーマで企業セミナーを企画しています。

内容は各テーマの第一線で活躍しておられる九大の先生方、企業の方々による「講演」、及び「交流会」を予定しています。

詳しい日程などが決まりましたら、次号およびホームページでお知らせします。

「九大・学研都市フェア」開催

9月13日（火）から19日（月）までの7日間、福岡市天神のソラリアプラザ1F広場ゼファにおいて、九州大学と学研都市の魅力を満載にした「企画展」を開催します。

会場では、100年にわたる九大の写真展、私たちの未来を支える様々な研究、学術研究都市の未来像、糸島半島の魅力を伝える展示や、九大生のサークルによるコンサートなどが行われます。

九州大学学術研究都市とは？

●構想策定までの経緯

本構想は、平成10年5月に地元産官学の総意に基づいて設立された九州大学学術研究都市推進協議会が、3年間にわたる各専門委員会やワーキンググループの検討を重ね、伊藤滋・早稲田大学教授を委員長とした構想検討委員会により審議し平成13年6月に策定したものです。

この構想は、九州大学新キャンパス（現伊都キャンパス）を中心とした福岡市西部の糸島半島を一次圏、福岡市から唐津市を二次圏とした「知の創造空間」の形成を目指す構想です（図-1）。

図-1　構想対象エリア
（浜玉町は唐津市と合併）

図-2　学術研究都市構想報告書と
新キャンパス・マスタープラン2001

●4つの理念

本構想では、前述した一次圏、二次圏を含めた学術研究都市形成にあたり、以下の4つの理念を柱とします。

1. 共生社会の実現　　2. 世界・アジアと交流
3. 創造性の発揮　　4. 新産業の展開

九州大学でも、平成13年2月に新キャンパス・マスタープラン2001を策定し、現在キャンパス建設を行っており、当機構としても本構想実現に向けて活動を行っていきます（図-2）。

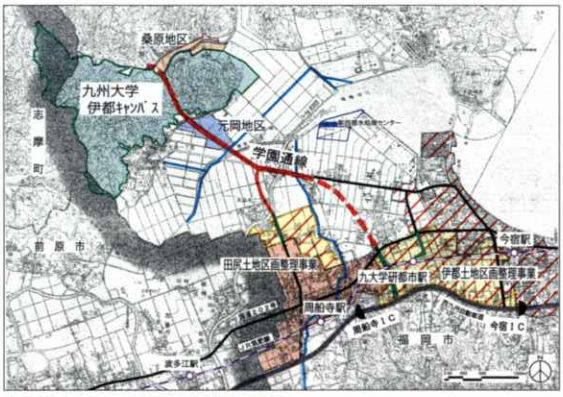
自治体からの報告
Report from municipality

福岡市

基盤整備を進めつつ、産学連携のまちづくりへ

福岡市では、平成3年に、九大の本市西部地域への統合移転が決定されてから今日に至るまで、移転事業に様々な形で支援、協力を進めてまいりました。

275ｈａにも及ぶ広大な新キャンパス用地を、福岡市土地開発公社が先行取得し、造成工事を順次進める一方、アクセス道路整備や河川改修、さらには伊都、田尻の土地区画整理事業を推進するなど、



九州大学移転関連基盤整備計画図

伊都キャンパスやこれを中心とする学術研究都市を支える基盤整備を進めてきており、今後も着実に推進してまいります。

今秋10月1日には、工学系の一部が移転、いよいよ第１期開校を迎えることとなり、学術研究都市づくりは新たなステージを迎えようとしています。

福岡市としても、従来のインフラ整備中心のまちづくりから、大学という知の拠点を中心とする産学連携のまちづくりへと展開してまいりたいと考えており、その一環として、産学の連携・交流の拠点づくりをめざし、産学連携交流センター（仮称）の構想を今年度中に策定します。

移転先周辺における産学連携のまちづくり、企業・研究機関の立地促進に向けた先導的施設として当センターを整備することにより、優秀な技術者・研究者の育成・確保、研究開発機能の高度化、新たな産業・技術の創出につなげたい、と考えているところです。

今後とも、新たな学術研究都市づくりの実現に向け、ご理解、ご協力をお願いいたします。

http://www.city.fukuoka.jp/

シリーズ　糸島の自然と歴史・文化

第1回
伊都の由来

伊都キャンパスとなる糸島の地は、美しい自然が残り、新鮮な食材に恵まれ、そして歴史のロマンに溢れています。昔、伊都と呼ばれたこの地は、現在は前原市、糸島郡志摩町、同二丈町そして福岡市西区の長垂海岸以西の地域からなっています。

伊都国歴史博物館　■問合せ先 092-322-7083

さて、伊都という名称は、凡そ1700年前、中国の正史『魏志』倭人伝に現れます。ここには邪馬台国や卑弥呼、奴国、対馬国など馴染みの深い名詞が記されていますが、邪、馬、卑、奴など蔑視した漢字が目につきます。この中にあって格調高い"都"の文字を当てた伊都国には特に一目置いていたことが判ります。代々王がおり、中国からの使者は常にここに留まり、女王卑弥呼から強大な権限を与えられた一大率も大陸からの玄関口であるこの地に置いています。当時、先端技術や文化を真っ先に受入れた進取的な対外交流拠点であったようです。さん然と輝いた弥生時代の伊都国はその後、中央政権への従属を深めながら伊斗村（古事記）、伊覩県（日本書紀）、怡土郡（筑前国風土記）などへ、明治29年郡制施行により糸島郡へと変遷し、現在は上述した四つの地名からなっています。

そして21世紀に入り、学術・文化の拠点都市"伊都キャンパス"がこの地に登場するのも歴史の因縁のようで、新たな時代のうねりの到来を感じさせます。昨秋、この地に伊都国歴史博物館がオープンしました。ここには伊都国王が漢の皇帝から王の証として贈られた特別な品物を始め、悠久の時空の流れを感じさせてくれる数々の遺物が展示されています。是非、お仕事でお疲れになられた際はご来観され、歴史空間の旅にタイムスリップされては如何でしょうか。

http://www.city.maebaru.fukuoka.jp/
（ご案内と写真提供:糸島ふるさとガイド）

魏志倭人伝の
伊都国が登場するページ

OPACKめーる vol.1 平成17年7月15日発行
（財）九州大学学術研究都市推進機構　企画広報グループ　〒810-0001　福岡市中央区天神4-3-30　天神ビル新館6F
TEL.092-735-4848　FAX.092-716-1325　E-mail: info@opack.jp